

# 検査の目的と結果の見方

形態	B M I	身長と体重のバランスで肥満度を見る検査です。BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)
	腹 囲	男性で85cm、女性で90cm以上の場合、内臓脂肪量が100cm以上と推定されるため、メタボリックシンドロームの指標となります。
尿検査	尿 蛋 白	腎臓の障害により数値が上昇します。また、ストレスや激しい運動でも上昇することがあります。
	尿 潜 血	尿路の異常（炎症・結石・腫瘍など）でみられます。
	ウロビリノーゲン	肝機能障害、胆汁色素生成増加、及び腸内容停滞がある場合などで値が上昇します。
	尿 沈 渣	尿路感染症の診断や腎機能をみる検査です。
腎機能検査	尿 酸	痛風の原因となる物質で、この値が高いときは高尿酸血症といいます。数値が高いと尿路結石も作られやすくなります。
	尿素窒素・クレアチニン	老廃物の一つで、腎臓での排泄機能に異常があると値が上昇します。
	推算 G F R (推算糸球体ろ過量)	腎臓が老廃物を排泄する能力を調べる検査です。クレアチニン値を基に、年齢及び性別を加味した計算式により算出します。
胸部検査	胸 部 X 線	肺結核や肺がんの早期発見のほか、心臓や大動脈の状態を調べます。心胸比とは、心臓陰影と胸部全体の幅の比で、正常値は50%未満です。50%を超えると心肥大が疑われます。肥満者では見かけ上、心胸比が大きくなることがあります。
	胸 部 C T	マルチスライスCTによる胸部断層撮影を行います。肺や心臓、大血管の形態や病変の有無を調べます。
	肺 機 能	肺の容積や空気を出し入れする換気機能を調べます。閉塞性肺疾患や拘束性肺疾患などに分類し、COPD(慢性閉塞性肺疾患)の早期発見にも有効です。
		肺活量・%肺活量：最大吸気位から最大呼気位までの呼気量。年齢・性別・身長からの予測値に対する割合(%肺活量)が80%未満で、拘束性肺疾患が疑われます。
一秒量・%一秒量：努力性肺活量測定時の、最初の1秒間に呼出される呼気量。年齢・性別・身長からの予測値に対する割合(%一秒量)から、閉塞性肺疾患の悪化程度がわかります。		
一秒率：努力性肺活量に対する一秒量の割合。70%未満で閉塞性肺疾患が疑われます。		
循環器検査	血 圧	測るときの状態でかなりの変動があります。日を改めて数回測定し、自分の血圧の傾向を把握することが必要です。高血圧をそのまま放っておくと脳卒中や心筋梗塞、腎障害を引き起こす原因となります。
	心 拍 数	測る時の状態で変動はありますが、通常およそ1分間に50~100回の頻度で一定間隔で発生します。この間隔が乱れたものが不整脈です。
	心 電 図	心肥大や冠状動脈硬化(狭心症や心筋梗塞)、不整脈などの診断をするための基礎的な資料となります。安静時心電図検査と、心臓に一定の運動負荷をかけ心電図を調べる負荷心電図検査とがあります。運動負荷をかけることにより心臓に送る血液を増加させ、冠状動脈硬化による変化を見ます。
糖代謝	尿 糖	尿の中にブドウ糖が出ているかを調べます。糖尿病発見の手がかりになります。
	血 糖	血液中のブドウ糖の量のことをいい、食後経過時間に応じて判断します。高いと糖尿病、膵臓がん、ホルモン異常が疑われます。
	H b A 1 c	過去1~2ヶ月の平均的な血糖の状態をみています。飲食によって変動する血糖値と異なり、HbA1cはほとんど変動しないので、糖尿病が疑われたときの検査として有効です。
脂質検査	総コレステロール	血液に含まれる脂質で、ホルモンや細胞膜を作りますが、高値が続くと動脈硬化を起こします。
	HDLコレステロール	善玉コレステロールで、血液中の悪玉コレステロールを回収します。少ないと、動脈硬化の危険性が高まります。
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールで、多いと血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させます。
	中 性 脂 肪	エネルギー源となりますが、多すぎると脂肪として体内に蓄積され動脈硬化を起こします。

肝機能検査	総蛋白・蛋白分画・アルブミン・A/G比	肝臓や腎臓などの異常、栄養状態の程度を調べます。
	ビリルビン	黄疸を示す指標で肝・胆道疾患、溶血性疾患で上昇します。
	AST・ALT (GOT) (GPT)	心臓や肝臓の細胞の中に含まれる酵素で、肝炎や脂肪肝、肝臓がんなどで値が上昇します。
	ALP	骨・腎臓・肝臓に多く含まれる酵素で、骨疾患や肝臓・胆道疾患で値が上昇します。
	LDH	あらゆる組織の細胞に含まれる酵素で、心筋梗塞や急性肝炎、白血病などで値が上昇します。
肝炎検査	γ-GTP	肝臓に多く含まれる酵素で、アルコール性肝障害や慢性肝炎などで値が上昇します。
	HBs抗原・抗体	B型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。抗体は、以前にB型肝炎ウイルスに感染したかどうかを示しています。
膵	HCV抗体	C型肝炎ウイルスに感染していないかを調べます。
	アミラーゼ	主に膵臓から分泌される消化酵素で、急性膵炎など膵臓に障害があると特に高値を示します。
血液一般検査	白血球数	細菌などから身体を守る働きをしています。身体に感染症や炎症が起こっていると値が上昇します。
	赤血球数	細胞に酸素を送るなど重要な働きをしています。低値だと貧血、高値だと多血症が疑われます。
	血色素量(ヘモグロビン)	赤血球の中に含まれている蛋白の一種で、貧血の診断に有効です。
	ヘマトクリット	血液中に含まれる血球成分の容積の割合をいいます。貧血などで低下します。
	MCV・MCH・MCHC	MCV(平均赤血球容積)・MCH(平均赤血球ヘモグロビン量)・MCHC(平均赤血球ヘモグロビン濃度) 貧血の鑑別と原因や、貧血の種類を診断するのに役立ちます。
	血小板	血液の凝固に関係し、数が減少すると出血しやすくなったり、止血しにくくなったりします。
	白血球像	さまざまな白血球の比を調べ、異常の診断を行います。
炎症反応	CRP	炎症や病気などで体の組織が壊れたときに血中に増えるたんぱく質で、細菌・ウイルス感染などで値が上昇します。
胃部検査	胃部X線	バリウム(造影剤)を飲み、放射線を使って体の外から胃や食道・十二指腸の形や病変の有無を調べます。
	胃部内視鏡	ファイバースコープを口から飲み込んで、食道から胃・十二指腸まで挿入し、潰瘍・ポリープなどの有無を観察したり、組織の一部を採って(生検)、悪性細胞(がん)などがいないか調べます。
	ペプシノゲン	血液検査で胃粘膜の萎縮度を調べます。検査で異常があった場合は、胃粘膜の萎縮が進み、胃がんになる可能性があります。
腹部	腹部超音波	肝臓や胆嚢、膵臓、腎臓といった腹部の臓器の状態を超音波でみる検査です。
大腸	便潜血	消化管の出血の有無を調べます。
眼科検査	眼底	瞳孔から眼球の中に光を入れて、眼球の奥の血管を観察します。眼の疾患だけでなく、動脈硬化による血管の変化も観察できます。
	眼圧	圧搾空気を吹きつけて、角膜のへこみ具合によって眼圧を測定しています。眼圧が高いと、緑内障・網膜剥離などの眼の疾患が疑われます。
女性科検査	子宮頸がん検診	子宮頸部(入り口)の細胞診や内診をし、子宮頸部のがんの危険性を検査します。ベセスダシステムで判定します。
	乳房視触診	乳房にひきつれ、はり、しこりなどの有無、乳頭からの分泌物、腋窩(わきの下)のリンパに腫れがないか診察します。
	乳房X線(マンモグラフィ)	乳房は柔らかい組織でできているため専用の装置を使い、圧迫して撮影します。乳がんをはじめ乳房にできる病気のほとんどを見つけることができ、しこりとして触れないごく早期の乳がんも発見できます。厚生労働省のガイドラインでは、対象年齢が40才以上の方に推奨されています。
	乳房超音波	超音波で乳房や脇の下リンパ節を調べます。しこりや腫瘍の大きさ、広がり、乳腺症や早期の乳がんも発見することができます。乳腺の発達した若年の女性には、この検査が適しています。

